

## 大阪府における外来魚の記録

松井彰子（大阪市立自然史博物館）・花崎勝司（高槻市立自然博物館）・  
柏尾 翔（きしわだ自然資料館）・山田浩二（貝塚市立自然遊学館）

外来生物問題が社会問題として認識されるようになってから久しいが、各地で新たな外来生物の記録は後を絶たない。大阪市立自然史博物館では、大阪・近畿地方を中心に、外来生物の分布状況を市民参加で調査するプロジェクト「外来生物調査プロジェクト Project A」を実施している。魚類分野では、大阪府内の外来魚の分布とその変化を明らかにすることを目的とし、市民参加調査による標本収集、博物館収蔵標本情報の収集、および文献調査を行った。市民参加調査は2017年から2019年に行った。博物館収蔵標本情報は大阪市立自然史博物館・高槻市立自然博物館・きしわだ自然資料館・貝塚市立自然遊学館の標本台帳にもとづいた。

大阪府内でこれまでに記録された外来魚は少なくとも40種で、このうち国外外来魚は28種、国内外来魚は8種、飼育型・飼育品種が3種、国内外来魚と飼育品種の両方の報告があるものが1種であった。また、40種の定着状況については、2019年現在で定着している可能性が高いまたは今後の定着が懸念されるものが23種、定着していないと思われるものが17種であった。移入の経緯については、定着しているまたは懸念される23種では、漁業や遊漁目的での放流またはそれに付随して導入されたと思われるものが13種、観賞魚の逸出・放棄に由来すると思われるものが6種、どちらにも含まれるものが1種、その他の経緯によるものが3種であった。定着していないと思われる17種では、漁業や遊漁目的での放流またはそれに付随して導入されたと思われるものが7種、観賞魚の逸出・放棄に由来すると思われるものが10種であった。

大阪府内に定着または今後の定着が懸念される23種のうち、特に広範に分布しているものは、ブルーギル、オオクチバス、カダヤシ、タウナギ、ドジョウ（中国大陸系統）で、これらの種は府内各地で確認された。コイ（飼育型）、タイリクバラタナゴ、ミナミメダカ（他地域産・飼育品種）も大阪府内で広く定着していると思われるが、これらは外部形態にもとづく同定が難しく、詳しい分布状況は分からない。大阪府における外来魚の分布の全体的な傾向は、淀川水系、大和川水系、およびその周辺水域を主とした府中央部の都市部で多く、府北部と南部では少ない傾向があった。特に淀川水系では、府内で定着または今後の定着が懸念される23種のうち22種の記録があり、次いで大和川水系では13種の記録がある。

今後の定着・分布拡大・被害拡大が特に懸念されるものとして、チャネルキャットフィッシュ、コクチバス、ドジョウ（中国大陸系統）、ミナミメダカ（他地域産・飼育品種）、カラドジョウが挙げられる。ドジョウ（中国大陸系統）、ミナミメダカ（他地域産・飼育品種）は、すでに大阪府内で広く定着していると思われるが、外部形態からの識別が難しいために、今後も人知れず分布拡大し、在来のドジョウやミナミメダカの存続を一層脅かしていくことが予想される。カラドジョウは、釣り餌などとして大阪府内でドジョウ（中国大陸系統）に混ざって販売されており、府内でのドジョウ（中国大陸系統）の生息状況と、本種の他府県での侵略性を鑑みると、今後、本種の野外への導入・定着が懸念される。